

本試験、お疲れ様でした！

試験のやり直しと言えば➡一問一問の内容をチェックすること、ですが…

本当に必要なことは「**一問一問の答えをどのように導き出したか**」を振り返ることなのです！

Q：何のために？ そんなのどうでもいいじゃん。。

A：なぜこの問題は正解したのか、なぜあの問題を間違えしまったのか、を可視化することで
今後のあなただけの勉強方法・作戦をしっかりと立てるためです。

Q：正解した問題は振り返らなくていいのでは？

A：なんとなく、勘であたったのか？

これは、テキストのあそこのページのあの表にあったから、自信をもって正解した!! のか？

ぼんやりと、これかなあ…という感覚で、消極的な答えだったのか？

他が違うから、消去法でこの答えになったのか？

それぞれ全然意味合いが違います!! だから正解肢も振り返る必要があるのです!!

「なんとなくの勘」で、結果論として本試験で点数が取ればいいのですが

来年のリベンジを考えるあなたに対しては

「その問題は、不正解に等しいです！」と

心を鬼にして言わせていただきます！

この振り返りは、問題に出た知識を得るため、ではありません。

今年の本試験を合格するためにがんばってきたあなたが

実際に本試験を解いて、どのように解答したか、どのような思考でこの結果になったのか。

それをひも解くことで、

★自分の勉強に対する姿勢が甘かったのか？

★知識の精度が低かったから解答が導き出せなかったのか？

★問題を後で見てもたらわかったのに本番ではおかしい答えにしてしまったのはなぜなのか？

これらを自分でしっかりと認識することで、本試験の振り返りがコンプリートします。

リベンジを考えている人は、これが終わって、はじめてきちんとしたスタートが切れます！

しっかり点数が取れて、合格間違いなし、の方もぜひやってみてください。

がんばった自分の1年の総まとめができます。

それでは、振り返りシートの書き方をご説明します。

問題	正誤	分析	なぜあっていた？	なぜ間違えた？	どうすれば正解できたか。
1					
2					
3					
4					
5					

例えば、賃貸借の賃貸人の地位と、借地権対抗要件について「妥当でないもの」を答える問題だったとしましょう。

本試験では全肢をきちんと精査していない可能性がありますので、本試験でやった通りでかまいません。

【正誤について】

1の肢は、○と思った・正解も○だった場合、表の「正誤」は○。

○なのに×だと思ってしまったら、間違いなので×を「正誤」のところに書きます。

(選択肢ごとに、自分の判断が合っていたかどうかで○×が変わります。)

問題	正誤	分析	なぜあっていた？	なぜ間違えた？	どうすれば正解できたか。
1					
2					
3					
4					
5					

【分析について】

次の「分析」についてですが

〈分析マーク〉

◎：これは間違いなく○だな、と確信が持てた。

○：70%は○だと思う。うん、ほぼおそらく○だな、っていう感じ。

●：現場思考。(で、正解が出せた)(現場で考えて不正解なら×の欄へ)

▲：曖昧。記憶しなきゃいけないところであった。が、きちんとできていなかった。

△：分かっていたはずが、急に頭がこんがらがって、おかしい答えになってしまった。(勘違いも)

□：完全な勘。(見たこと聞いたことはあったけど、ほぼ分からないから。)

×：不知。(全く知らない)

問題	正誤	分析	なぜあっていた？	なぜ間違えた？	どうすれば正解できたか。
1					
2					
3					
4					
5					

(もし、全部を見ないで答えが出たパターンの時は、振り返り時に解いてみての感想をつけましょう)

分析マークを見ながら、一肢一肢、丁寧に分析することが大事です!!

【なぜあっていた？ なぜ間違えた？ どうすれば正解できたか？】

ここには、

もし**正解**だった時は、「どうして正解できたのか？ 試験前のどんな勉強のおかげか？」

もし**不正解**だった時は、「どうして正解できなかったのか？ どんな勉強を今後すればよいと感じるか？」
を、より具体的に、より深く考えることが、振り返りの効果を上げるポイントです！

問題	正誤	分析	なぜあっていた？	なぜ間違えた？	どうすれば正解できたか。
1					
2					
3					
4					
5					

(例)

- 試験前に条文を見ていたから、自信をもって正解できた。(→◎)

➡これからも条文学習を大事にしていく。

- 覚えるべき表を覚えていたから、きちんと正解できた。(→◎)

➡覚えるべきところは覚える。この姿勢は崩さないようにする。

- 丸覚えしていたわけではないが、似たような制度を思い出し現場思考で正解が出せた。(→●)

➡今後の対策は、知識の横断整理をしながら重要論点をしっかり記憶すること。

※今回のようにたまたま現場思考できるとは限らない。

- そんな記憶があったから、その記憶を頼りに正解にしてみた。(→○)

➡問題に対するファーストインプレッションは大事。やった記憶は頭のどこかに残っている。

➡今回のように記憶が出てくるかわからない。今後は自信をもって答えられるように。

- あー、これ出ちゃったか。きちんと覚えていなかった・・・そして不正解。(→▲)

➡なぜ覚えていなかったのか？自分の勉強に対する甘さを自覚すること！

※こんな勉強を繰り返しても、いつまでも安定な点数はとれない！

- 覚えたはずだったのに、現場で思い出せず。つまりきちんと記憶できていなかった。(→▲)

➡やったはず、でも出てこない。これは記憶作業が足りないから。

※自分の勉強の姿勢が甘い。こんなことでは「やったつもり」を積み重ねるだけ。

- 後から考えたら、なぜこの答えにしたか分からない・・・試験場には魔物がいる・・・(→△)

➡緊張するのはよくわかる。でも考えた答えを解答用紙に反映させないと点数にならない。

※冷静になることを意識して、5問に一度深呼吸してみる、など対策をねる。

- 正しいものを答えるはずが、なぜか誤っているものを答えてしまっている。(→△)

➡問で聞かれていること（正しいものを答えるのか？誤りを答えるのか？）を

大きく○×と書いて、それをもう一度確かめてみる。

※自分にうっかり癖があることを自覚して、とにかく自分を疑ってかかる。ここ大事。

- 知らない判例ばかり出てきて、現場で読んで答えてみたが間違えた。(→×)

➡マイナーな判例でなければ判例学習が足りないということ。

※テキストに出ている判例は、争点・要旨・結末は分かるようにする。

とにかく「どうすれば正解できるか？」をよくよく考えてください。

これらのことを、きっちりシートを使って振り返ってくだされば

★今の自分の課題

★これからの勉強に対する姿勢

が浮き彫りになってきます！

これが、あなたに課された「あなただけの今後のミッション」です！！

浮き彫りになった課題は、
最終ページの「来年のあなたに向けたメッセージ」にしっかり書き留めて
それをいつでも見えるところに貼っておくことをおすすめします。

この振り返りに数日かけても、丁寧に

「自分の弱点」「足りないところ」を「科目別」に書いておくこともお勧めします。

民法は、条文に関連する判例をもっと頭に入れる。覚える表はきちんと入れる。
問題練習を怠らない。どんなに簡単でも図を書いて解く癖をつける。毎日解くことを忘れない。など

行政法は、行政手続法は…行政不服審査法は…と個々に分けて対策を書いておくとか後で見返す時に便利です。

本試験後の今だからこそ、自分でやっておきたかったこと、反省点がどんどん浮かぶはずです。

今が振り返る最高のタイミングです。そしてそれを今後の指針にして、勉強計画を立てましょう。